

おしゃれ障害について

おしゃれ障害とは、「おしゃれをすることで体に起きてしまうトラブルこと」です。肌がヒリヒリするかぶれから、失明の危険のある取り返しのつかない障害までさまざまです。

大人と子どもの違い

「大人はよくて、どうして子どもはだめなの？」と聞かれたことはありませんか？一番の大きな違いは、子どもはまだ、発達の途中であること。発達とは、体が大きくなるだけでなく、体の働きが大人に近づいていくということでもあります。子どもの体の働きは未熟な状態です。肌ひとつとっても、皮膚が薄く、バリア機能が未熟なため刺激を受けやすく、皮膚内への化学物質の侵入も容易です。

大人が大丈夫だから・・・、興味があるから・・・、大人の使ったものがあまったから・・・。大人と同じように考えてしまうと、子どもたちの健康を守れなくなってしまうかもしれません。



ヘアカラー

ヘアカラーリング剤には、様々な種類がありますが、含まれている成分はどれもかぶれる原因になるものです。障害のなかで一番多いのは局所的な（頭皮、顔など）かぶれです。症状は軽度なものから重症なものまで様々です。

また、一度使用して症状がでなくても、続けて使用することで、急に症状が出る場合があります。子どものころから使用していると、大人になってから発症する危険が高くなります。

かぶれを生じるカラーリング剤を使用し続けると、アレルギー反応がだんだんと強くなり、発疹が出る場合があります。まれですが、アナフィラキシーショックといって生命の危険性がある症状を発症した例も報告されています。ヘアカラーリング剤の多くは元来子どもに使用するという前提ではないので、注意が必要です。

他にも、マニキュア、化粧、カラーコンタクトレンズやピアスなど、おしゃれ障害の原因となるものがあります。子どもたちにとって必要なものか、安全性はどうかをしっかりと判断することが大切です。

